

# 長野県松本市島立（町区）方言のアスペクト

沖 裕子

## I. はじめに

1. 調査対象地：松本市中心部から国道158号線で約5キロほど西に行ったところ。安曇平へと続くひろがりのある平らな土地にある。数年前、長野自動車道のインターチェンジが、集落の東約1キロほどのところに開通し、158号線は松本市内へのアクセス道路として使われるようになった。旧町名は東筑摩郡島立村町区。昭和29年に合併して、現在は松本市島立となった。まとまりのある農業集落。現在106戸。以前は、全戸が米作農家であったが、現在は専業農家が4割ほど。あとは兼業農家である。松本駅から、松本電鉄上高地線が1時間に1本（ないし、2本）走っている。それで10分ほど。
2. 調査年月日：1994年4月9日 午前10時15分～12時
3. 話者：亀井規素子氏 昭和5年2月18日生(64歳)  
移動歴なし。数代前からの造り酒屋である亀田家に生まれ、育った。
4. 調査者：沖 裕子（1955年生。言語経歴；0～18歳松本市, 18～27東京都23区内, 27～32和歌山県海南市, 32～38奈良市(27～38までの勤務地は大阪・京都) 38～松本市)
5. 調査場所：日本司法博物館応接室
6. 調査方法・調査時の状況：質問法によった。調査場所は、話者の家のほど近くにある。話者は、博物館の理事長夫人としてほぼ毎日館内に詰めているため、応接室を借りて調査をした。見学者が少ない時間を選んだので、時間的にまとまった調査となった。話者は設定場面を的確に理解し、どのような言い回しが自然な発話であるかということの意識と観察がはっきりしていた。
7. 凡例：△は、誘導で得られたことを示す。（ ）内は話者が述べたことがらをまとめたもの。＊は、報告者の説明。調査の該当部分だけを記す方法はとらず、話者から返ってきた内省の全文を記すように努めた。「回答の出方、順序が尊重される」という調査要綱に従って記した。

## II. 調査結果

1. (昔は) よく行ったものだね イッタワネー
2. (あそこは) おもしろかったなあ ①タノシカッタワネー／△②オモシロカッタ  
ネー

3. (もうちょっと) 落ちるところだった オチソーデ アブナカッタネー
4. (今にも) 落ちそうだよ ①サイフガ オチソーデ アブナイヨ キオ ツケナキ  
 ャ/△②アッ サイフガ オチソーダネ
5. (財布を) 落として サイフ オトシチャツタ
6. 困っている ドーショー コマツタナ
7. (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ①ローソク モー オワリソーダヨ/②モ  
 ージキ オワリソーダヨ (自然な言い方) /△③キエソーダ (③も言うが、①の  
 方が自然)
8. (今) 消えようとする アー ローソクガ キエソーダ キエソーダ
9. (完全に) 消えた ①アー ローソクガ モー オワッチャツタ/②キエチャツタ  
 (②も言うが①の方が自然)
10. (すでに) 消えてきたよ ローソクガ キエテタヨ
11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた ①アー イッポン キエタ ニホン キエ  
 タ/②アー ローソク キエタ/③ローソクガ イクツモ キエタワネー
12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ ①ア イッポン キエチャツタ ア  
 ー マタ キエソーダ/△②アー マタ ツギンノモ キエテク
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ ミテテゴラン ローソクガ ダンダン  
 キエテクカラ
14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ①ナンボンモ アッタ ローソクガ ゼ  
 ンブ モー キエチャツタヨ/△②モー キエチャツテルヨ
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ ローソクオ ダンダンニ ケシテル  
 ヨ
16. (もう全部) 消しているか ①モー ゼンブ キエチャツタカ ミテキテヨ/②  
 サイショカラ ゼンブ ケシオワツタカ ミテキテクレナイ
17. (今にも桜が) 散りそうだ ①カゼデ サクラガ モー ダンダン チリソーダ  
 ②コレジャ サクラ チッチャウネ モッタイナイネ
18. (ちらほらと) 散り始めた サクラ チリダシタネ (「チリハジメタネ」は言わ  
 ない)
19. (今現に) 散っている ①ドンドン チッチャウワネー/△②チツテルネ (②と  
 も言うが①の方を言う)
20. (桜の木がすっかり) 散っている アー サクラガ ゼンブ チッチャツテ サ  
 ミシーネー
21. (地面一面に) 散っている ①??ハナガ チツテ ジメンガ ハナデ マッシ  
 ロダネー/②ジメンニ ハナガ イッパイ チツテルネ \*あまりこのようなこ  
 とを言わないようだ。

- 2 2. 今にも降りそうだ ①イマニ アメ フッテクルワネー／②モー アメ フリソ  
ーダネー
- 2 3. (あの時は今にも雨が) ふりそうだったなあ イマニモ アメ フッテキソーダ  
ッタネー
- 2 4. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ アノトキワ アメ モー フッテタ  
ヨ
- 2 5. (あの時はやがて夜が) 明けようとうしていたよ モー アケガタデ モー ヨ  
ガ アケルトキダッタワネー
- 2 6. (来年の今ごろは家を) 建てている (最中) ライネンノ イマゴロワ チョー  
ド ウチオ フシンシテルカラ
- 2 7. (来年の今ごろは) 家をすでに建てている モー ウチガ チャント デキテル  
カラ (デキテルと言う)
- 2 8. (あの家はよく) 磨いてある \*「磨いてある」を引き出す場面設定がうまくで  
きなかつた。「新しい家」に関しては「柱が磨いてあって光っている」ことがな  
いからである。「この机はよく磨いてある」で尋ねたところ、「フイテアル」と  
いう答えが返ってきた。〔処置〕に関しては「テアル」形を使う。)
- 2 9. (隣の犬が) 鳴いている ①ゴンヤモ オトナリノ イヌワ ウルサイネ／②ゴ  
ンヤモ マタ ナイテルネ
- 3 0. (隣の子が) 泣いている ゾンヤモ マタ オトナリノ コドモサンワ ナイテ  
ルネー
- 3 1. (こどもたちが) 喧嘩している コドモタチガ ケンカシテルンネ センセー
- 3 2. (家に) いるかなあ イマ ウチニ イルノカナー
- 3 3. (〇〇さん) いるか ナニナニチャンチャン イル
- 3 4. (ああ) いるよ ココニ イルヨ
- 3 5. (そういう人も) いるよ ①ソーイウ ヒトダッテ イルンネ／△②ソーイウ カ  
ンガエカタノ ヒトモ アルワネー \*アルワネという形を誘導したら②の文が  
返ってきた。
- 3 6. (あなたは今何を) していたか ①ナニ シテタノ／②ナニ シテタダネー (ご  
く親しい人に対して)
- 3 7. (私は今金魚を) 見ていたよ ①イマ キンギョ ミテタダヨ／ミテタダンネ (一  
ダンネは、ごく親しい人に対して使う。一ダヨは、親しい人に対して。以下同  
様。)
- 3 8. (金魚が今にも) 死にそうだ ①イッピキ シニソーダヨ／シニソーダンネ
- 3 9. (やっぱり) 金魚は死んでいたよ ①トートー キンギョワ シンジャッタヨ／  
シンジャッタンネ

40. 読み始めていた ①ホノオ ヨンダタダンネ／②ヨンダタダヨ
41. 読み始めたところへ(～た) ホン ヨンダタラネー デンワガキテネー
42. 着くと同時に～した キタラ スグ デンワガ キテサ／キテネー
43. 着くと同時に～してくれ ツイタラ スグ デンワシテネ／②デンワ シトクレ  
ネ
44. 鳴りつづけている サッキカラ ナリッパナシダワ
45. (先生は今何を)しているか ①センセーワ イマ ナニオ シテマスカ／②セ  
ンセー ナニ シテタネー／ナニ シテルダー／③センセー イマ ナニシテル  
ダイ (男性が使う。親しげな言い方)
46. 好きだ ①アノ センセーワ イーネー／②アノ センセーワ スキダワネー
47. 見られているのも アノ センセーウッタラ ワタシタチ ミテルノモ シラナン  
デ イネムリシテルワ／②イネムリシテルダンネ (人に話す場合) \*受け身形は  
使わない
48. (今、運動会が)ある ①イマ ウンドーカイ ヤッテルンネ／②ウンドーカイ  
マッサイチューダワ
49. (降らなくて)よかったよ キョーワ アメ フラナンデ ヨカッタネー
50. (先生がこっちへ)来つつある アー アノ センセー コッチ アルイテクル  
ネー／②コッチ クルネ
51. (犬がこっちへ)来つつある ①アッ ウチノ ポチガ コッチェ トンデクル  
／②コッチェ クル
52. 似ている ①ヨク ニテルンネ／②ヨク ニテルダヨ
53. (一週間も前から遊びに)来ている モー イッシューカンモ マエッカラ ウ  
チェ アソビー キテルヨ／キテルンネー／キテルダヨ
54. (昔から)苦労していない アノ ヒトワ ユーフクダモンダカラ チットモ  
クローナンカ シテナインネ
55. (今は あまり)苦労しないている イマワ ラク シテルワネ／ラク シテル  
ンネ
56. ～は売っているが、～は売っていない アノ ミセワ タバコワ ウッテルケド  
イリョーヒンワ ウッテナイワネ／ウッテナインネ
57. (昔からタバコを)売っている ムカシッカラ タバコ ウッテルンネ
58. (今、大売出しで衣料品を)売っている ウッテルンネ／ウッテルヨ
59. (もう三回)来ている コノ ミセーワネー モー サンカイモ キテルダヨ／  
キテルンネ
60. (いつも)来ている コノ ミセーワ ショッチュー キテルダンネ／キテルン  
ネ／キテルダヨ／キテルヨ

- 6 1. (昔はいつも) 来ていた ①ムカシワネ コノ ミセー ヨク キテタワネ/②  
ヨク キタヨー
- 6 2. (前に一度) 行っている ①アノ オミセーワ マエニ イチド イッタワネー  
/②イッタ コト アルワネー
- 6 3. 先に行っておいてほしい アトカラ イタカラ サキニ イッテテチョーダイ/  
サキニ イッテテクレナイ
- 6 4. 待ってなさい ジキニ クルカラ マッテテネ
- 6 5. (外に) 待たせてあるよ ①コドモワネ ソトデ マッテルンネ/マッテルダヨ  
/②マタセテアルダヨ
- 6 6. 食べておいておくれ ①サキニ ゴハン タベトイデ (「食べていなさい」の意  
) \*タベ+テ+オイデ [イロの丁寧形] /②オソクナルデ サキ ゴハン タベ  
テネ/③サキ タベテトクレ \*タベ+テ+イテ+オクレ→タベテトクレ
- 6 7. (昔と) 違っている ミソシルノ アジワ ムカシト チガウネ
- 6 8. (昔は今のと) 違っていた ムカシワ オミソシルワ ショッパクテ/シオカラ  
クテ イマトワ ダイブ アジ チガウワネー
- 6 9. (毎日梅干しを) 食べている マイニチ ウメ タベテルヨ/タベテルダンネ/  
7 0. (毎日) している マイアサ タイソー シテルダンネ/シテルンネ
- 7 1. 気をつけていて (～した) シジュー カラダ キオ ツケテテネー
- 7 2. 行ったまま～ トモダチノ ウチー アソビー イッチャッテ チットモ カエ  
ッテコナインネ/カエッテコナイダヨ
- 7 3. ～しながら ハナシ シナガラ トンデル/トンデアイッテル
- 7 4. ～の途中で～する ①ガッコーエ イクツイデニ シンシセキー ヨル/②ガッ  
コーエ イクトチュー (①の方が言う)
- 7 5. ～の途中で～した ガッコーエ イクトチューデネー センセーニ イキアッタ  
ンネ
- 7 6. ～の途中で止めて～した ①ホン ヨミカケデ ヤメタ/②ヨミカケデ デカケ  
チャック
- 7 7. ～したばかりだ ソノ ホンワ キノー ヨンダバカダンネ
- 7 8. 無くなっている ①コノ ツクエノ ウエーオイトイタ メガネ ドコ イッチ  
ャッタカナー/△ドコ イッチャッタズラ/△③ナクナッチャッテルワ
- 7 9. 無くなるぞ ①ハヤク タベナキャ タベラレチャウヨ/△②ナクナッチャウヨ
- 8 0. 掛けておいた帽子 ボーシ カケトイタケド ドコエ ヤッタ シラナイ?
- 8 1. 並んだ本 ①コノ ホンダナノ ホン ゼンブ ホシーナー/△②ココニ ナラ  
ンデル ホン ゼンブ ホシー \*「ナランダホン/ナラデルホン」どちらを  
用いるか確認すると「ナラデルホン」を使うという即答が返ってきた。

82. 並べた本 ①ココニ アル ホンワ ムズカシー ホンダネ/△②ココニ タテ  
 タル ホンワ ムズカシー ホンダネー \*②は「ここに積んであるのではなく  
 並べてある本は」という問い方で尋ねた。この場面では〈並〉については「ナラ  
 ベテアル」という他動詞形は用いにくいようである。
83. ～しておこうか イマノ ウチニ アノ ホン ヨンドコーカ/②ヨンドクカネ  
 ー (②は人に言う場合)
84. やってあるか シクダイワ ミンチ ヤツタル?
85. 壊している マタ オモチャ コワシテルヨ
86. 壊れている ①モー コワシチャッタワ/②アー モー コワレテルヨ
87. 壊されている キノー カッタバカリナノニ モー コワシチャッタヨ
88. のけてある アブナイカラ ヨセトイタヨ/ドカシトイタ
89. 書き終わった ヤット カキオワツタンネ/カキオワツタヨ
90. 書いてしまいなさい コレッキリジャナイ ハヤク カイチャイ
91. 書いてしまう イックラ カイテモ マチガッテ カイチャウヨ/チガッテ カ  
 イチャッタヨ
92. 書いてみた ハジメテ フジサンノ エー カイテミタヨ/カイテミタンネ
93. (孫は今)入院している イマネ ニューイン シテルダンネ/シテルンネ
94. (弟も今)入院しているそうだ ①ムコーデ ニューイン シテルヨーダンネ/  
 ②ニューイン シテルッテ ユーンネ/③ニューイン シテルッテンネ
95. (きっと)よくなるよ ①ワカイダモノ シンパイシナクッテ ダイジョブダヨ  
 /②キット ナオルンネ/③キット ヨクナルンネ
96. (だんだん)よくなるよ ダンダン ヨクナルサネ/ダンダン ヨクナルワネ
97. 歳とるとね トシー トルトネー
98. なおらなくなるよ ①ナカナカ ナオリガ オソクテネ/②ナオリニクイモンダ  
 ヨ/ナオリニククテネ
99. (1) (犬が)怪我したので ①イヌガ ケガオ シタモンデネー ビョーインエ コ  
 レカラ イクンネ/イクダンネ/イクダヨ/②イヌガ ケガー シチャッタモン  
 デ
- (2) (こどもが)怪我したので ①コドモガ ケガー シチャッテネー ソイダ  
 モンデ コレカラ ビョーイン イクトコサネ/②ケガー シチャッタモンデ
- (3) (お父さんが)怪我したので ウチノ シュジンガ/ウチノ ヒトガネ/ウチ  
 ガネー ケガー シチャッテネ/ケガー シテネー
- (4) (雨が)降ってきたので ヒョーシ ワルク アメ フッテ キチャッテ キ  
 ョーフ ヤメルカネ。

100. (1)B

(2)A

(3)B

### Ⅲ. 総括（まとめ）

#### (1)共通語と比較しての当該アスペクトの特色

進行態、結果態とも「テル」形によって表す。

#### (2)調査項目以外の特記事項——当報告の資料の性格について——

今回のアスペクト調査では「回答の出方、順序が尊重される」という方針が明確に示された。この方針は、場面と対応した土地土地の固定的な表現様態というものをまずは尊重するというにあるかと思う。その点に関しては、よい話者を得て、ある程度自然談話を反映しえたように思う。

その一方で「まずはそのまま受け止めるとともに、なお該当する他の事象がないかどうか、注意深く聞き出す努力を怠らない」という要綱の指示については、なかなか実行が難しかった。別の場面を用いて尋ね直した項目もあり（例えば、項目28など）、その場合は注記を付してあるが、そうすると、一定の場面に見られる各地域の表現という「統一調査票」の意義はやや失われることになる。

調査場面を離れて、当該の言語形式そのものの使用例を探ろうとすることの意義は大きい。こうした文法形式の調査では、場面を離れば離れるほど、自然な使用例から離れて、「使用するか否か」から、「使用する可能性があるか否か」の方向へ行き、その境界は曖昧なため、しらないうちに話者に文法性の高度な判断を求めることにもつながる。

言語は、今まで言語化されていなかった概念や感情を表現する可能性を秘めた道具であるとともに、生活の習慣的な繰り返される場面に対応した表現が存在し、そうした決まった言い回し（あるいはそのバリエーション）を発話して日常生活に対応し、用を足し、時にはそうしたきまりきった表現を口にすることを楽しむということに役立っている道具でもある。方言は、どちらかといえば後者のような働きのなかで形成されてきた言語であるといってもよいであろう。一概には言い切れないが（そして、的確に整理する言葉も持たないが）、非日常的な高度な思考の働きは、方言保持と平行して共通語化の進んだ今日では、どちらかと言えば共通語的な場面での言語が担っているように思う。

そして、方言的場面と共通語的場面は話者の中では連続しており、意識化した切り換えもあれば無意識的に移行する場合もあるようである。

共通語と近い体系・語形を持つ方言において、このような調査項目で調査した場合、場面を離れば離れるほど「言おうとすれば言える」というぎりぎりの境界（すなわち新しい現実の切り取り方に対応して語形の使用範囲を広げられる極限）を求めることになりが

ちであると感じている。そのような問い方をした場合、どこまでが一体「方言」かという問題にも一石を投じるものであろう。

従って、「当該場面における使用表現」の調査か、「当該の言語形式を使用しうる外延」の調査かといえば、当報告は前者に傾いている資料かと思う。

本地点については、話者が一人であることもあり、あくまでも調査票にしたがった調査結果を示したということである。

調査票に即して述べれば、「当該調査場面で使用しうる（自然な）形式のひとつ」は調査しえていると思われるが、「当該場面で使用しうるすべての形式、あるいは使用しうる可能性のある形式」の調査については、なお今後補われる必要がある。調査者の未熟による調査の不備というものも含まれていることは承知しているが、そのほか、文法項目の方言調査全般にわたる迷いも反映している部分があると思われるので、覚書として記した。

（おき ひろこ 信州大学人文学部）